



青葉区民会議



2016年2月発行

青葉区民会議ニュース

44号

発行 青葉区民会議

事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内

Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com

URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索

入手先：青葉区役所、地区センター、地域ケアプラザ、区民活動支援センター、図書館、区民利用施設など

青葉区民会議

検索

減災サミット # 2 開催します！

災害が起きる前にできること。

ぼうさいびと

あなたのまちの「防災人」づくり

- 日時 3月26日(土) 午後2時～4時半 開場 1時半
- 会場 青葉区役所4階会議室
- 定員 100人 当日会場へ



災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード理事・副代表 高橋 洋さん

ぼうさいびとは



日常でも(災害前)、災害が起きても、自立して減災行動や災害支援活動ができる人。また近助や共助の仕組みの中で主体的に協働行動できる人。

第1部 基調講演 講師:高橋洋さん

「地域は誰が、どのようにして守るのか？」

第2部 まちの防災、拠点の防災 取組や課題の紹介

- * 巨大マンションが10分で安否確認(杉並区の事例)
- * まちの防災と地域グループとの連携(あざみ野第二小学校)
- * 安否確認 共助の進め方(桂小学校地域防災拠点)
- * これからどうする拠点防災(榎が丘小学校地域防災拠点)
- * 災害ボランティアセンターと拠点の連携は(青葉区災害ボランティア連絡会)

第3部 みんなで考える「防災人」づくり

防災減災を地域や拠点で実際に進めることができる「人づくり地域づくり」を考えます。

今 あなたのまちの防災の担い手はどなたですか？

今年はどのような訓練をしようかと地域防災拠点では困っていませんか？

青葉区民会議では過去8回の防災・減災公開講座を行ってきました。

その中から、たくさんの課題がさまざまな人から出されてきました。



今 同じ会場に集まり、まちを守る人づくりを考えます。

そして まちを守る「防災人ぼうさいびと」が、実際に活動できる仕組みを考えます。

講師プロフィール：災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード理事・副代表

元練馬区防災課職員。全国で社会福祉法人や介護事業所職員の防災教育などを行っている。また、復興ボランティアの一員として、福島県南相馬市小高区などへ支援に行っている。

平成23年度内閣府防災ボランティア活動検討会メンバー

著書：防災訓練のガイド「頭脳の防災訓練」のすすめ／防災協働のガイド「自助・共助・公助を超えて」

防災実務のガイド「担当者のここまでとここから」など

回覧

承認
区連会17号

発行：青葉区民会議

区民会議の勉強会に参加しませんか？

青葉区民会議では毎月勉強会を行っています。区政や市政についてさまざまな視点から学びます。また、まちづくりについての提案提出のために必要な知識や技術を学びます。

【8月勉強会】8/27/2015 (13:30-17:00)「田園都市線沿線の未来を描く～ICTを活用した「オープンイノベーション」で未来の都市を創発する～」へ参加 青葉区民会議の取組状況を報告しました。

(主催：横浜会議フューチャーセッションー横浜市政策局政策課 会場：東京都市大学)

【9月勉強会】「青葉区に係る予算のすがた」城内予算調整係長に横浜市
の予算内訳と其中で青葉区ではどのような予算が執行されているのか
について「区民に分かる予算のすがた」を説明してもらいました。

【11月勉強会】11/12/2015 (14:00-16:00)ファシリテーショングラ
フィック よこはまプランナーズ・ネットワークの奥村玄さんによる



ワークショップ。人の話の要点やキーワードを絵や図
で表しながら(板書)し、話の内容・流れを分かりやす
く「見える化」する技術です。参加者が全体の流れを分か
り、議論がやりやすくなります。区民会議は区民の意見を
集める、共有する、知らせる(考える)ことを目指してい
ます。そのためにも会議の進行役にとっては必要なスキルです。

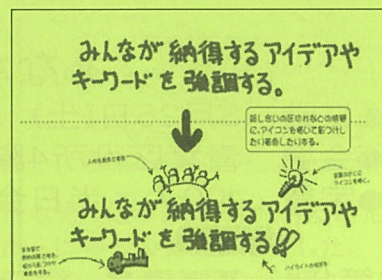
【12月勉強会】12/24/2015 (14:00-15:00) データを活かした「地方創生」
とオープンガバメントの取組 政策局政策課担当係長関口昌幸さんに国が今
進めているRESAS(地域経済分析システム)の説明と横浜市
の取組について話していただきました。RESASは地方自治体の取組を情報面・データ面
で支援する内閣府のシステムです。青葉区民会議では、まちづ
くり役に役立つようなデータがあり、それをいかに活用する
のか勉強を始めることにしました。

【1月勉強会】1/15/2016 (19:00-21:00) MyCityForecast～あな
たのまちの未来予報～(19:00-21:00) 東京大学生産技術研究室
より関本義秀准教授と研究員長谷川瑤子さんに青葉区の未来予



報を開発されたアプリを使っ
て説明してもらいました。自分の住む地域の例えば2035年の未来予報を
シミュレーションし現在と比較できます。私たちの住む地域がこのまま
ではどうなるのか、都市計画を導入するとどう変化するのか、人口分布
や施設配置データなどをもとに予報がつけられています。未来の予報を
参考に住みたいまち青葉区について考えました。

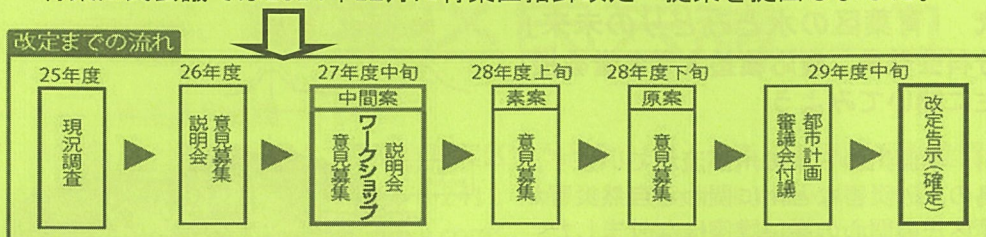
●青葉区民会議顧問議員との意見交流会 11/24/2015 (18:00-20:00) 横浜市区青葉区選出議員7名、神奈
川県議会青葉区選出議員3名の方々に区民会議顧問をお願いしています。今回テーマを「町の防災(自主
防災組織)と地域防災拠点 それぞれの役割と課題について」とし顧問の方々へご案内し、参加された3名
の方(藤崎浩太郎さん、赤野たかしさん、青木マキさん)と意見交換を行いました。地域防災の課題には
防災に係る人の継続性や拠点区域の境界、拠点運営
のむずかしさなどさまざまな問題があることを実際
に地域で防災活動をしている委員より提示しました。
地域防災拠点での訓練内容と自治会でされる安否
確認訓練や、要援護者支援などがさらに連携し地域
全体の防災力向上を目指せないかなど、熱心に意見
交換が行われました。3月26日開催の減災サミット
でもこのテーマを取り上げます。



参考：参加のデザイン道具箱より

区民会議は青葉区の‘今’と‘これから’の課題を共有します

❗ **青葉区まちづくり指針改定の中間案 説明会へ協力 (9/13/2015)**
 青葉区民会議では2014年12月に青葉区指針改定へ提案を提出しました。



「中間案にある3か所の生活支援拠点だけでなく地区センターやケアプラザに次ぐような身近な拠点をもっと作っては」「老人施設の作り過ぎは、団塊世代の小学校の作り過ぎと同じではないか」「区民のさまざまな能力を活かす仕組みが必要」「公園の多様な活用方法」「空き家対策」「多様なコミュニティに対応する拠点の必要性」など多くの意見がだされました。

❗ **青葉区民まつり (11/3/2015)** 区役所1階ホールでゆっくりと座ってお話を聞くことができました。健康・福祉・教育部会では「ケアプラザの認知度」、自然・環境部会は「鶴見川クイズ」、安全・安心・まちづくり部会は「防災クイズ」を実施。防災クイズの正解率はあまり高くありませんでした。なかでも「NTT災害用伝言板171」は53%。171は日頃から練習も登録もできますので事前登録を呼びかけました。また、「グラット来たので調理中の鍋の火を消しに台所へ駆け込んだ」×の正解は62%。「グラットきたら火の始末！」が根強いことが分かりました。青葉区検定5回目となる「青葉区ご当地クイズ」今年も多くの方々が参加して楽しんでいただけました。鶴見川が昔氾濫したことや川遊びの思い出など、貴重な体験などお聞きすることもでき、鶴見川の自然や治水について学ばせていただきました。



❗ **防災まち歩き (11/30/2015)** 第1回は、たまプラーザ駅から美しが丘地区を歩きました。高齢化率と標高と防災拠点を同じ地図上に表しながら、まちの安全について考えます。青葉区は丘陵地帯で、どこに行くにも坂を上ったり下ったり。避難所の地理的な課題や要援護者支援を高齢化の中でどう進めるか、まちの防災組織や防災人を育てる仕組みなど課題は山積みです。



❗ **第41回区民会議交流会(11/27/2015) 「今こそ考えよう！これからのまちづくり」**
 波止場会館で開催 参加区9区 参加数 46人 第一部では「横浜市が目指す大都市制度『特別自治市』について」(橘田政策局大都市制度推進室長)「データを活用した市民参加のまちづくり」(関口政策局政策課担当係長)による二つのまちづくり入門講座がありました。第二部では参加者が5つのグループに分かれて各区が抱えている課題などの情報共有・意見交換を行いました。隣接の区だけでなく横浜市という視点でのまちづくりを考える良い機会でした。



参加者が5つのグループに分かれて各区が抱えている課題などの情報共有・意見交換を行いました。隣接の区だけでなく横浜市という視点でのまちづくりを考える良い機会でした。



❗ **横浜北部まちづくり交流会(12/12/2015)** 会場：かけはし都筑
 まちづくり交流会では港北区、緑区、都筑区、そして青葉区のまちづくりを進める団体やグループがテーマを決めて交流を行っています。今回のテーマは「どんな防災マップが優しいの?」。青葉区民会議は「マップに表す安心安全まちづくり」を高齢化マップなどを使って報告しました。また横浜18区の防災マップの比較や課題についてのミニ講演もあり、まちづくりは一つの区だけでなく広域連携や情報共有が必要なことが改めて認識されました。



* 拡大版マップはHPでご覧ください

高齢化マップ

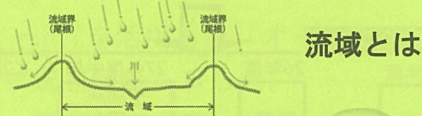
区民会議はみなさんの意見をお聞きします

公開講座「鶴見川の自然と治水」を開催しました (2/7/2016)

後援：鶴見川流域水協議会

- 第1部：講演 温暖化豪雨時代 「青葉区の水とみどりの未来」
岸 由二氏 (国土交通省河川分科会委員、慶応義塾大学名誉教授)
- 第2部：質問コーナー 岸先生に聞いてみよう

青葉区には谷本川(鶴見川)、恩田川、早淵川の3本の川が流れています。昨年の鬼怒川の水害、一昨年の広島土砂災害など川に関わる自然災害が立て続けに発生したこともあり青葉区民の関心の高い講座になりました。2本の川、恩田川、早淵川は鶴見川に合流しひとつになります。鶴見川流域という視点で治水や自然を考えることは、まちの見方や生活スタイルに大きな変化を起こします。岸先生ご自身は、目黒川流域生まれで鶴見川流域育ちです。生活と川は切り離せません。鬼怒川で起きたことの「原因」や「意味」の解説をお聞きし、同じ気象現象*が鶴見川や多摩川の上流で起きたらこの青葉区では何が起こるのか、何を準備しておかなくてはならないのか考えさせられました。鶴見川流域の地図上に自分の住所を確認して初めて「上流で降った雨が下流に殺到する。」この事の重要性に気づかされました。(*鬼怒川上流から下流に長時間豪雨が降り続ける気象現象が起きました。線状降水帯) 鶴見川総合治水対策の成果で昭和51年(1976年)以降降水害がほとんどなくなりました。青葉区内にも多くの遊水池(調整池)があり、流域に貢献しています。策定から10年が経過した水マスタープランは地球温暖化への取り組みや生物多様性への対応など時代が求める対策も組み込み、H27年12月に改定されました。河川だけでなくすべての生活に及ぶ水マスタープランについても会場からは多くの質問ができました。



流域とは



国土交通省京浜河川事務所「水マスってな〜に」から転載



●青葉区内の鶴見川沿いを歩いてみたら・川あるきレポート (12/24/2015)

公開講座「鶴見川の自然と治水」を目前に区内の鶴見川沿いの現状を知っておくため寺家ふるさと村から緑区・都筑区との区境近くまで約7キロを歩きました。毎年部会メンバーで歩くおなじみのコースです。以前は田畑であった所が荒れた耕作放棄地となっていたり、川沿いの青少年サイクリングコースや農園直売所が廃止されていたりと、そのたびに少しずつ景色が変わっています。寺家ふるさと村から寺家川沿いに続く鶴見川への道は、案内看板を設置し散策路として整備すればもっと多くの人たちが歩きにくるのでは、と初めて歩いた委員から意見が出ました。常磐橋から宮前橋までの左岸の道はきれいに整備されていました。これは、草が茂りすぎて道幅が狭くなり、歩行者・自転車がすれ違うにも危険な状況だったため、区民会議が草刈り整備を提案要望した場所です。鉄町高水敷のオギの群落はきれいな景観をつくっています。鶴見川流域の美しい自然環境の維持、そこに生きるさまざまな生き物(生物多様性)、子どもたちが川や自然とふれあえる場作り(親水広場)、災害対策(治水)など、流域にかかわるさまざまな課題を考えさせられた有意義な川あるきでした。



市が尾水辺の広場



区民会議では毎月勉強会を開催します。内容やスケジュールについては青葉区民会議ホームページでお知らせします。参加希望の方は区役所広報相談係へご連絡ください。

青葉区民会議に参加を希望される方は、氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを書いて

青葉区役所 1階広報相談係へ Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 メール: ao-koho@city.yokohama.jp